

**U**ENOMIYA

上宮中学校・高等学校

平成 26 年度  
学 校 計 画

## 1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育理念の根底におき、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育を目標に「上宮教育」を推進し、実践する学校である。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いをもち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一、掃除・二、勤行・三、学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り周辺の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業に専念し精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は人として正しく生きるため、健康な心身の土台に智慧を育むためにある。掃除と勤行を学問より先に掲げるのは、成績至上主義に陥ることへの戒めであり、学順はその重要性において並列の関係にある。

## 2 教育目標

上宮中学・高等学校の教育目標は、建学の精神に基づき、法然上人が説かれた人倫と仏の慈悲の精神を多くの若者に分け与えることである。時代の波が変化しても、人として生きるべき道を見つめる正真の眼と、理想に向かって進む勇氣と剛健の足を育てることが本校の使命である。

教育の三本柱は「知・徳・体」の育成であるが、「上宮教育」はこの三本柱のバランスを重視し、他校ではできない心の教育を大きな目標としている。人としてより良く生きる人生の礎を築くことが学校本来の役割であり、10年後、30年後、それ以後の人生にも明るい灯火となる火種を生徒の心に育てたい。

日々の厳しい勉学の延長上に大学進学目標を持つこと、クラブ活動に励むこと、多くの友情と師弟愛を育むことが中学・高校時代には必要である。上宮は教室だけでなく多くの行事を通して生徒を育て、「より厳しく、そしてより温かく」の精神で個々の生徒に寄り添いながら、「躰の厳しい進学校」として上宮教育の目標を達成したい。

中学・高校時代は将来の生き方、人間形成の上で最も重要な時期であり、進路指導もそれを前提にして考えるべきである。多くの学校が追い求めているように、有名大学への合格者を増やすことのみならず血道を上げることは、生徒たちに大学合格のみが最終目標であるような気持ちを持たせ、将来の本人の進路選択を誤らせることになりかねない。大学進学はあくまでも本人が将来、社会で活躍するための第一歩であり、進路学習を通して生徒の自己実現、社会貢献に目標を持たせることを心がけたい。そして教員は生徒本人の適性、学力、環境、大学受験情報を総合して、的確な教育とアドバイスを施さなければならない。将来、社会人として活躍するには自ら考え行動できる人間を育成しなければならない。そのためには学力だけでなく、幅広い知識と教養をもち、自ら努力できる人物を育成しなければならない。

我々教員は、日々の教育活動に邁進するだけでなく、生徒の将来に思いを寄せ、卒業・進学した後の師弟関係においても、暖かく卒業生を迎える気持ちを持ち続けたい。

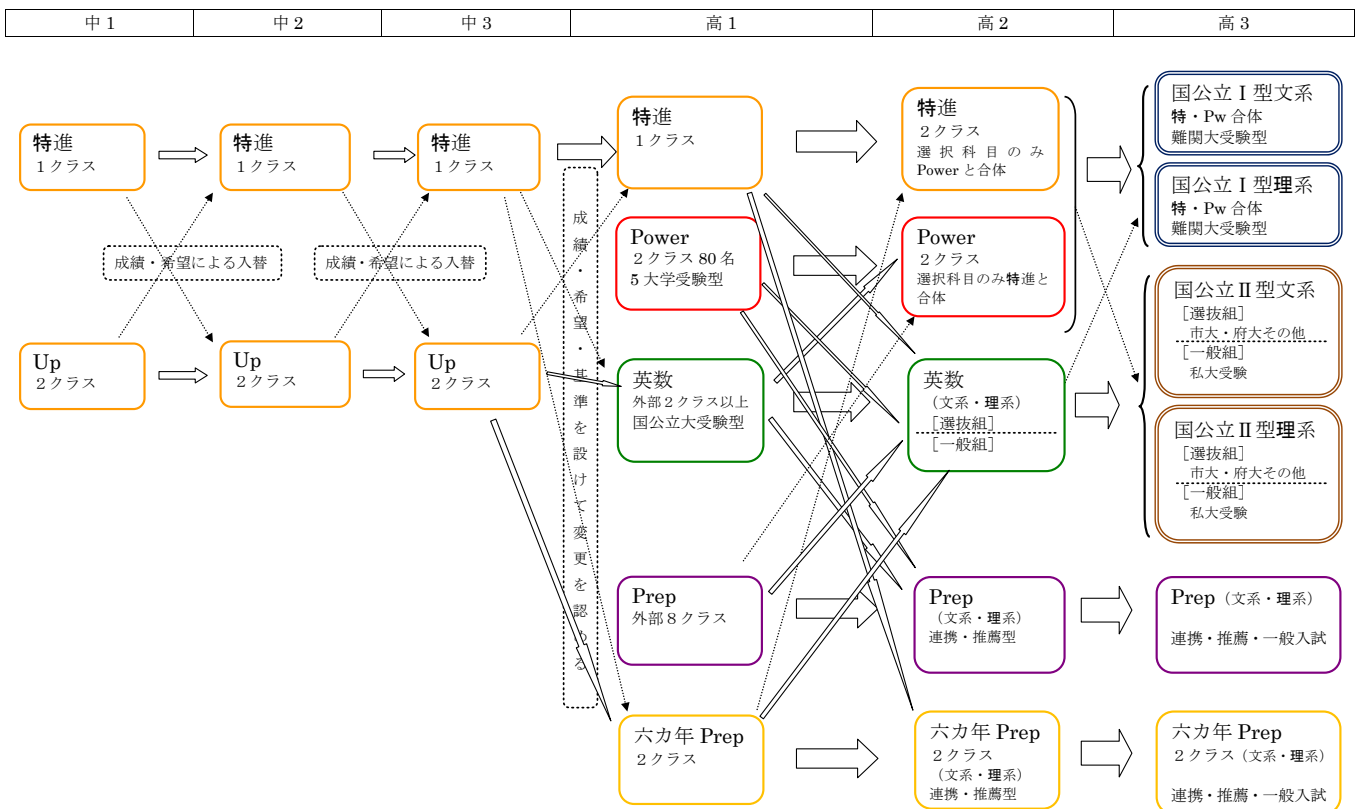
### 3 平成26年度のコース再編にあたって

#### a コースの再編

上宮教育を遂行するためには、中学から入学する六カ年の生徒と高校から入学する三カ年の生徒に対し、学習指導と進路指導を絡めながら生徒の進路を切り開く必要がある。従来以上の効果を上げるためには、新コースの立ち上げとコースの再編成を検討する必要があった。そこで平成26年度より、中学では標準コースに変わりアップコースを新設して六カ年教育を充分発揮するとともに、高校では特進コースとパワーコースを融合して合理的な学習指導や進路指導が行えるようにコースの再編を行った。

以下に平成26年度からの上宮中学・高等学校の六カ年教育および三カ年教育の道筋を示す。

#### 平成26年度以降の上宮中学・高等学校コース編成



#### b コースの目標

##### 【中学】

6カ年コースは本校の教育力が最も問われるコースである。特進コース、アップコースとも、6カ年の特性を活かし、中学1年生から勉学とクラブ活動を両立させる環境を提供し、本校の教育目標に沿った全人教育が施され、最も上宮らしい生徒を育て上げなければならない

##### ① 特進コース

特進コースは学力レベルにおいて、最も高いレベルに位置しなければならない。他のコースからの目標とされ、常に上宮の推進力としての役割を果たすことが期待される。最終的には東大・京大・阪大をはじめとする難関国立大学を目標とする。そのためには、学習量を多くするだけでなく、常に高い到達目標を持つよう刺激を与える指導をしなければならない。学力と希望によって、中学での進級時のアップコースへの変更や、高校進学時や高2進級時には英数コース、六カ年プレップコースへの変更も認める。また、高3進級時においては、主にパワーコースと合流し、東大・京大・阪大をはじめとする難関国立大学を目指す国公立I型を形成する。また、生徒の学力等によっては、市大、府大

などの国公立大学を目標とする国公立Ⅱ型選抜組への編入も可能とし、受験希望の大学レベルに応じた進学対策を講じる。

## ② アップコース

アップコースは可能性を秘めた生徒のためのコースである。受験時には特進コースに達しなかったが、中学生に必要な基礎学力を定着させるとともに特進コースと切磋琢磨して、進級時には特進コースへの変更が可能である。また、高校進学時には学力と希望によって、特進コース、英数コース、六カ年プレップコースへの進学を認める。したがって、努力次第によって、私立大学はもちろん国公立大学への進学が可能なコースである。

アップコースは六カ年の特性を活かし、勉強、クラブ活動が可能であり、上宮の建学精神が最も発揮できるコースでなければならない。生徒の学業成績のUpだけではなく、向上心や人間力のUpを目指す上宮のUの文字を冠するという意味でのUpでなければならない。

## 【高校】

3カ年コースは3年という短い期間で生徒の可能性を引き出すことが必要である。今後は英数コースの質、量をともに充実させることが喫緊の作業となる。

## ③ パワーコース

パワーコースは、将来日本を背負って立つ、更には世界へ羽ばたく気構えを持つ生徒を育てるのが目標であり、東大・京大・阪大をはじめとする難関国立大学を掲げているのは、その気構えを持ち、これらの大学にはそれだけの力を持った学生が他大学に比べて多いからである。

高校2年進級時には英数コース、プレップコースへの変更も可能とする。さらに高校3年進級時には、主に特進コースと合流し、難関国立大学を目指す国公立Ⅰ型を形成する。また、生徒の学力等によっては、市大・府大などの国公立大学を目標とする国公立Ⅱ型の選抜組への編入も可能とし、受験希望の大学レベルに応じた進学対策が講じられる。

## ④ 英数コース

英数コースは特進コースやパワーコースが難関国立大学を目指すのに対し、市大、府大などの国公立大学を目指すコースである。高校2年進級時にはパワーコース、プレップコースへの変更も可能とする。また、高校3年時においては、主に市大・府大を目標とする国公立Ⅱ型の選抜組や私大一般入試組を形成する。また、学力が高い場合は国公立Ⅰ型への編入もあり得る。

## ⑤ プレップコース、六カ年プレップコース

プレップコース、六カ年プレップコースは、私立大学を目指すコースである。高大連携プログラムを活用し、早くから大学卒業後の将来設計をさせることを重要視するコースである。他校のように〇〇大学コースといった卒業後の大学が保障され、その大学しか行けないといったものではなく、在校中に自分の持つ能力や特性に基づいて進路をしっかりと考えさせ、幾つもの大学・学部から最も相応しい進路を選択させる。また基礎学力の充実、クラブ活動の参加、様々な検定へのチャレンジを通じて自己の総合的レベルアップを図ることが要求される。

連携枠・指定校枠はあくまでも目安であり、その大学・学部に適する力は、考査成績、模擬試験成績として現れるので、その力を有する者しか推薦されない。

2年進級時にはプレップコースはパワーコースや英数コースへの変更も可能とする。六カ年プレップコースは特進コースや英数コースへの変更も可能とする。また3年時には、進学希望大学・学部において、連携枠・指定校枠を利用しない生徒に対しては一般入試対策を施し、生徒の進路を保証する。

## 4 教育プランとシラバス・学力推進策への道

### a 教育プランとシラバス

コースの再編に伴い、上宮の教育目標・コース目標を明らかにし、上記「上宮の教育目標」に沿って、各教科が6カ年、3カ年の出口における学力到達目標を念頭に置き、学習教材、授業方針、授業計画、評価方法、課外の補講習や小テストの実施なども含めた教育プランを作成した。また、各コースにおいても、学校生活、学校行事、面談、成績分析、進路指導に関連する教育プランを作成した。教科とコースの教育プランは内部資料として教員間の共通指針とした。さらに教科の教育プランとコースの教育プランの内容を教科のシラバスおよびコースのシラバスに落とし込み、平成26年度から生徒・保護者等外部に公表できる形とした。

### b 学力推進策

教育プランとシラバス作成に伴い、管理職、教科主任、学年主任、コース主任は度重なる議論を行い、それらの会議の中で教科、コース、学年が抱える様々な問題点を浮き彫りにした。平成25年度に続き、平成26年度もそれらの問題点を、理事会、管理職会議、企画会、コース会議、学年会、教科会で検討し、解決案を導き出し、最終的には職員会議で全教員の共通認識を得る予定である。

## 5 中期的目標

### a 生徒の学校生活

- (1) 建学の精神に基づき、智・徳・体のバランスのとれた生徒を育成するため、中学・高校の教員が一丸となって、それぞれの発達段階に応じた教育に努める。
- (2) 社会の風潮や価値観が変化する中で、徳育については宗教教育の重要性を確認し、本校独自の躰教育、マナー教育、道徳教育へと発展するように研究を進める。  
また、生徒が直面しているメディアリテラシーについて、学校が取り組むべき研究と教育を推進する。
- (3) 学習指導要領に謳われている言語能力の向上に向けて、国語科はもちろん他教科についても横の連携を広げた研究を進め、図書館教育も含めて学校における言語環境を整備する。
- (4) 「躰の行き届いた進学校」としてさらに発展できるよう、生徒の生活指導や教科指導において、教員間の共通認識を高め、日々実践する。
- (5) 平成25年度第1回の生徒アンケートにおける全体の満足度は中学・高校とも83%であるが、3年後にはこれが90%になることを目標とする。
- (6) 教室での学習成果を上げることは勿論であるが、中学・高校とも校外で学習する行事について精査し、3カ年、6カ年の上宮教育がより発揮できる行事のあり方を継続的に審議する。

### b 学校の教育環境

- (1) 平成25年度末に作成された教育プランおよびシラバスは、今後も改善を継続することで、教科指導と進路指導における教育環境の充実を図る。
- (2) 教育プラン会議で浮き彫りにされた諸問題を出来るだけ早く解決して、教育環境のソフト面を改善する。
- (3) 教室、特別教室その他等の教育環境のハード面での改善を検討する。

- (4) 正規授業の充実はもちろん、課外の補講習のシステム改善や学内予備校の導入等の検討等をはじめ。
- (5) 教育環境を充実させるため、IT教育関係の研究を推進する。
- (6) 中学・高校の多感な時期にかけがいのない経験と人間性の向上が得られるよう、学校行事の工夫とクラブ活動の環境充実を図る。

### c 学力・進学面

- (1) 中学では、学力推移調査の平均偏差値が各コースに於いて1学期から3学期にかけて2ポイントアップするような方策の立案と実施に着手する。
- (2) 高校では、進研模試の平均偏差値が、各コースに於いて1学期から3学期にかけて2ポイントアップするような方策の立案と実施に着手する。
- (3) 3年後には、特進コース、パワーコース、英数コースから国公立大学に合計50名以上をめざす。さらに5年後には80名以上となるよう努力する。
- (4) 定期考査に対してしっかりと計画を立てて勉強する姿勢を身につけさせる。
- (5) 定期考査以外では、各種の資格や検定についての勉学を進め、努力目標を設定させる。

### d 財務面

- (1) 生徒数の増減に影響しない持続した安定的な給料と賞与を支給できるようにする。
- (2) 予想される今後の少子化と高校授業料実質無償化制度の不透明さの中で、生徒数が確保されるように努力する。
- (3) 生徒数の増加による学習環境の低下や先送りされてきた校舎の老朽化、急迫している耐震診断による補強並びに新築工事への処し方を考えていく。
- (4) 学園の経営指標や財務状況について詳細な報告をする。

### e その他

- (1) 職員会議が形骸化し報告会とならないように会議を活性化し、有効かつ機能的に運用されるように工夫を凝らし、教職員の意見の反映と意思の疎通を図る。

## 6 今年度の目標

### a 生徒の学校生活

- (1) 生徒の成長と学校生活を豊にするためには、教員が一丸となって生徒と接する必要がある。生活指導部は生徒指導の指針を常に明示する立場であり、教員全体が生徒指導マニュアルに沿った共通認識を持って生徒指導に当たる。
- (2) 躰の第一は挨拶の励行から始まる。登校時の校門での挨拶に始まり、各授業をはじめ校内におけるあらゆる機会の挨拶ができるようになるように、教員もその範を示すようにしたい。
- (3) 現行の頭髪一斉指導を継続し、「心は形を求め、形は心を進める。」の精神を生徒に定着させる。また遅刻指導に工夫を加えることで遅刻者を減少させる。
- (4) 授業を活性化するため、万が一、授業中の態度がよくない生徒や騒がしいクラスが出現した場合は、「授業正常化への取り組み」の手法を用い、適切に対応する。

- (5) 情報メディアの取り扱い方を誤り、インターネットやLINE等が生徒の生活環境を悪化させ、ひいてはいじめなどに繋がる場合がある。それを防ぐため、メディアリテラシーおよび情報モラルについての教育を推進する。
- (6) いじめ問題については、「上宮中学校・高等学校 いじめ対策基本方針」と「いじめ防止対策委員会」を中心に、いじめ防止と啓発を行い、問題発生時には機能的に対応していく。

## **b 学校の教育環境**

- (1) コース再編の第1期生を迎えるにあたり、各教科および各コースが作成した教育プランおよびシラバスに沿って教科指導、および生徒指導を実施する。教育プランおよびシラバスは学年末に改正し、次年度に備える。
- (2) 教育プラン会議で浮き彫りにされた以下の諸問題を解決する。
- 学校計画委員会を立ち上げ、学校計画・経営計画の策定を継続的に推進し、教員への周知を行う。
  - 教科会の機能充実を図り、教科指導力の向上を図る。
  - 学力推進委員会を立ち上げ、各コースに必要な対策を学校組織全体で取り組む。
  - 国公立大学進学指導委員会と私立大学進学指導委員会を立ち上げ、コースの垣根を取り払った進路指導を推進する。
  - 職員会議、主任会議、学年会議、コース会議および各小委員会の会議日の設定を明確化し、様々な審議が迅速に進むようにする。
- (3) 生徒減少期に伴う中学の各コースのあり方、中学から高校への進学のあり方、およびカリキュラムの見直し等の検討を継続して行う。
- (4) 平成25年度から実施している英語力アップ講座の精査を行い、よりいっそう生徒が受講しやすい体制を整える。
- (5) 中学の英語コミュニケーション講座の精査を行い、よりいっそう生徒が受講しやすい体制を整える。
- (6) 平成25年度に導入した2台の電子黒板を活用して、授業の充実を推進する。授業に導入する頻度を上げるためにも教員研修の実施を図る。
- (7) IT委員会が検討している校内ネットワーク環境を導入する準備を進めるとともに、IT環境を使用するための教員研修を行う。
- (8) 第2PC教室の設備面での改善をめざす。

## **c 学力・進学面**

- (1) 学力推進委員会、各コース会議、学年会議等で学力推進のための会議を進め、良案を適宜実施に移す。
- (2) 現在打ち出されている以下の案を検討・審議し、できる案件から実施に移す。
- Upコース合格者の入学式までの学力推進にかかわる取り組み、および4月の宿題考査に至るまで、新しい取り組みを実践する。
  - 中学で実施されている宿題考査を改善して、学力向上に繋がる取り組みを行う。
  - 中学、高校とも4月のオリエンテーション期間を通して、各教科・科目のノートの取り方を含めた授業の受け方を徹底して指導する。
  - コース・教科・科目によっては、4月を『振り返り期間』として、前年度に学習した内容を復習する期間に充てる。

- 初めての定期考査を受けるにあたって、前年度の第1学期中間考査の問題を開示し、授業を受けることにより、問題が解けることを実感させつつ達成感を持たせることができるような工夫をする。
- 中学Upコースの早朝テストとして、学力推移調査の過去3年間分の数学の大問1(計算等の基本問題)、および英語の大問2(熟語等を含めた文法問題)を早朝テストして実施し『大問1つで満点をとろう!』を目標に取り組みせる等の工夫をする。

#### d 財務面

本学園の教育活動を永続的に推進するために、さらなる財務体質の強化を図る。

##### (1) 事業別予算制度の構築

- 本学園が展開する教育活動について事業を区分し、事業計画とその実行に係る収支を把握し、当該事業の評価に資するため、事業別予算制度の構築に着手する。
- 評価を基に各事業の強化、存廃等を考慮し、予算の有効活用を目指す。

##### (2) 収支構造の改善

- 収支基盤を強化し、安定的な財政運営を図るため、収支構造の見直しを行う。
- 収入面では、既存の収入源の他に同窓会・産業界との連携強化を図り、寄付金収入の増収に努める。
- 支出面では、既存の諸制度の見直しを行い、経費の縮減策を検討する。